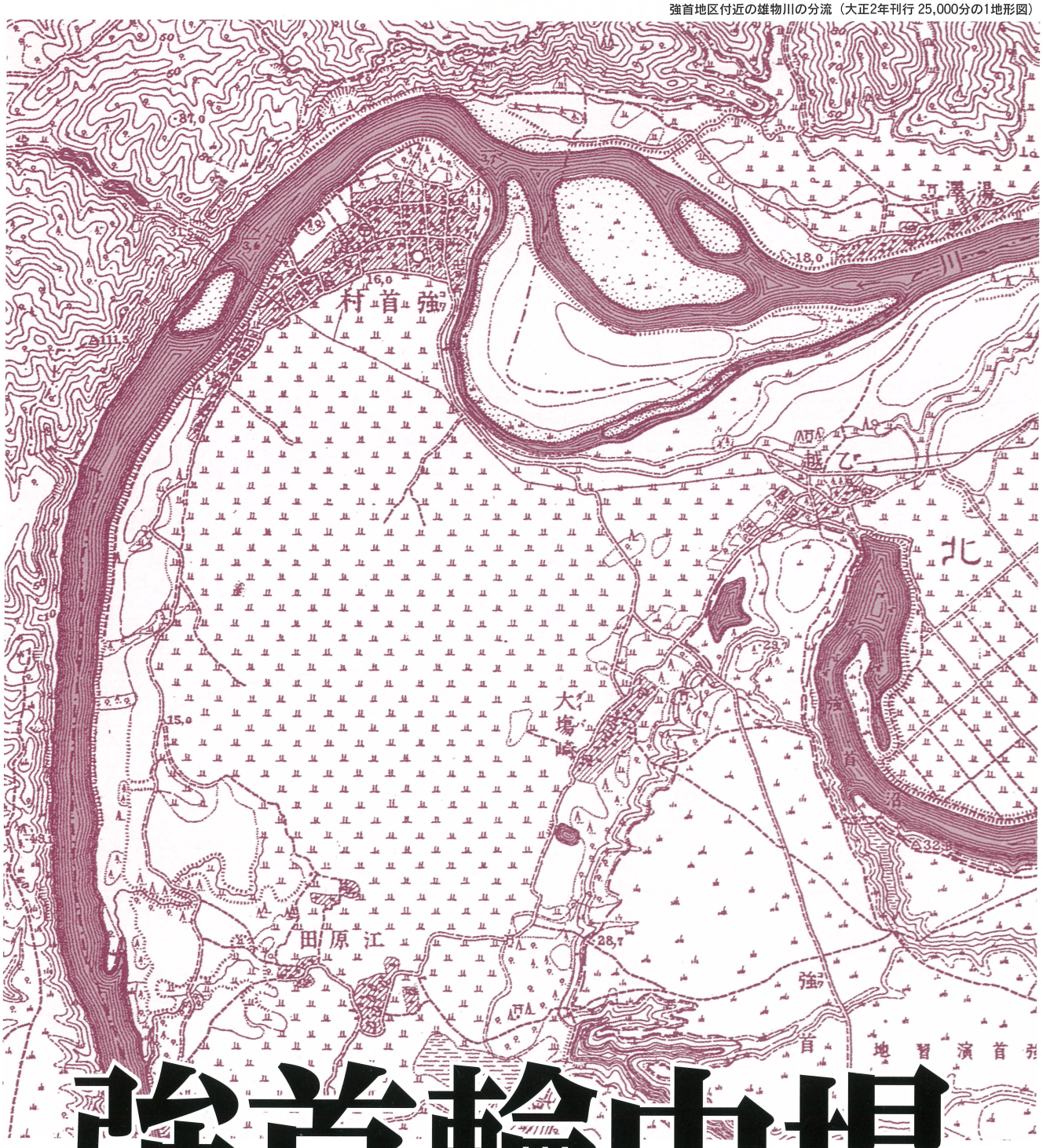
強首地区付近の雄物川の分流（大正2年刊行 25,000分の1地形図）



強首輪中堤



水害常襲地の被害解消を早期に実現するために

強首輪中堤整備事業

建設省・秋田県・西仙北町

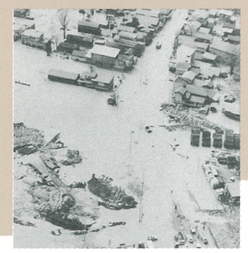
氾濫の記憶

強首のフォークロア

永い闘い

いくつもの洪水、そして、いまだ続く無堤地区。

開拓以来、穀倉地帯だった西仙北町・強首地区は物資や穀物を輸送する舟の船着場として栄えました。雄物川の水は、人々に実りと物流の恵みをもたらす、まさに命の水であったといえます。しかし、極度に蛇行しながら大地を下るこの中流部にあっては、雄物川は大水がでるたびに氾濫を繰り返し、地域の財産や命をも奪い去る恐怖の水ともなってきました。一帯は無堤地区が続き、現在も毎年のように水害に悩まされています。



冠水した国道13号線と市街地



不安気そうに避難する住民

主な洪水記録

洪　水　名	降雨規模	被　　害
昭和22年7月洪水	224.8mm/2日	全壊流失　104棟、半壊　129棟 床上浸水 9,851棟、床下浸水 10,668棟
昭和47年7月洪水	185.1mm/2日	全壊流失　4棟、 床上浸水 1,379棟、床下浸水　2,731棟
昭和50年8月洪水	199.0mm/2日	全壊流失　3棟、半壊　1棟 床上浸水　246棟、床下浸水　1,481棟
昭和54年8月洪水	147.0mm/2日	全壊流失　2棟、 床上浸水　62棟、床下浸水　821棟
昭和62年8月洪水	176.0mm/2日	床上浸水　102棟、床下浸水　245棟

※降雨規模は、椿川基準地点上流の流域平均雨量です。
※被害棟数は、建設省河川局「水害統計」及び秋田魁新報社資料（昭和22年７月洪水のみ）です。
※被害棟数は、雄物川上流の建設省管理河川区間分の数値です。



■浸水した強首地区（昭和62年）



■大洪水により孤立した強首地区



■いまだ記憶に新しい昭和62年の洪水



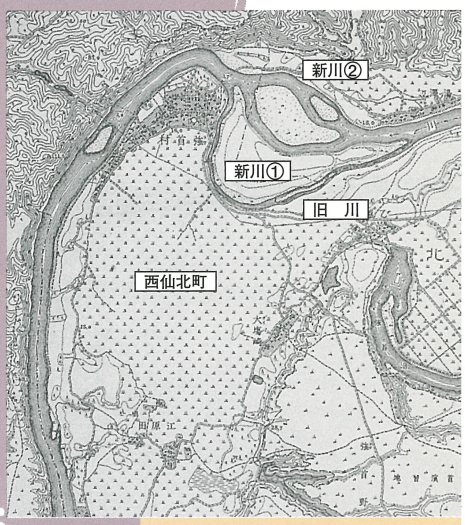


かつて最大規模の洪水「昭和22年７月洪水」

梅雨前線型の豪雨により発生したもので、雄物川本川及び支川（皆瀬川等）において既往最大洪水を記録した。22日から24日朝まで各地で連続雨量が200ミリを越える豪雨となり、特に稲庭においては22日の日雨量が207ミリ、秋の宮では連続雨量が405.8ミリと、雄物川流域内の降雨としては稀にみるものであった。被害も甚大で、この洪水により10名の命が奪われている。さらに、災害復旧工事中の９月に再び洪水に襲われるという惨事となっている。

強　首　輪　中　堤　整　備

繰り返される水害から生活を守れ。それも早期に・・・。



強首地区の集落を堤防で囲み早期に水害から守る「輪中堤」

この中流部一帯は過去に舟運が盛んであったことから集落の多くは川沿いに形成されています。そのため、雄物川の氾濫はまず人々が暮らす集落を襲いました。なかでも雄物川が極度に屈曲して流れる強首地区は約15kmもの堤防がつながらないと治水効果の発揮できない地形にあります。現在、中流部では堤防整備が急ピッチで進められていますが、その間も流域は氾濫の危険にさらされるため特に危険の高い強首地区は集落の周囲を堤防で囲む「輪中堤」を整備することで早期に水害から守ることとしました。



図1

強首を開め

図1を見て分かるように強首集落は蛇行する雄物川に巻かれるように形成されている。そのため集落は氾濫する雄物川にたやすく飲み込まれた。今回整備する輪中堤はその集落を堤防（赤線）で囲んで水害から守ろうというもの。堤防外となる住居については代替宅地を堤防内に設けることにしている。

いまだ続く無堤地区の堤防整備も急がなければなりません

輪中堤の整備により人々の暮らしは水害から守られることになります。しかしながら周囲の農耕地は依然として氾濫原のまま（図１）です。現在、中流部の築堤必要区間26.6kmのうちいまだ９割以上が無堤地区となっています（図２）。この一帯は水位の上昇にともなって浸水区域が広がるという特性を持っているため、輪中堤の整備とともに流域の堤防整備も急ぐ必要があります。全ての堤防が完成することは中流部沿川の悲願ともいえるのです。

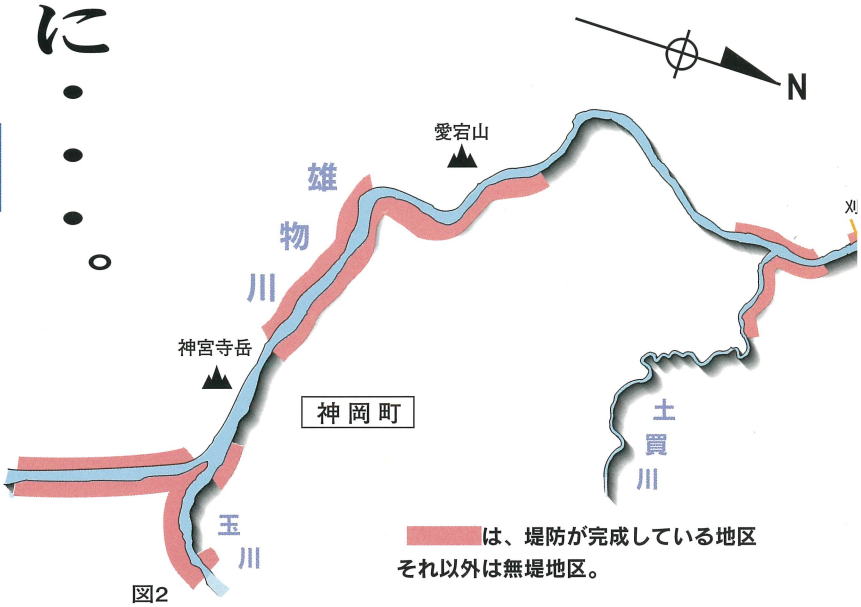


図2

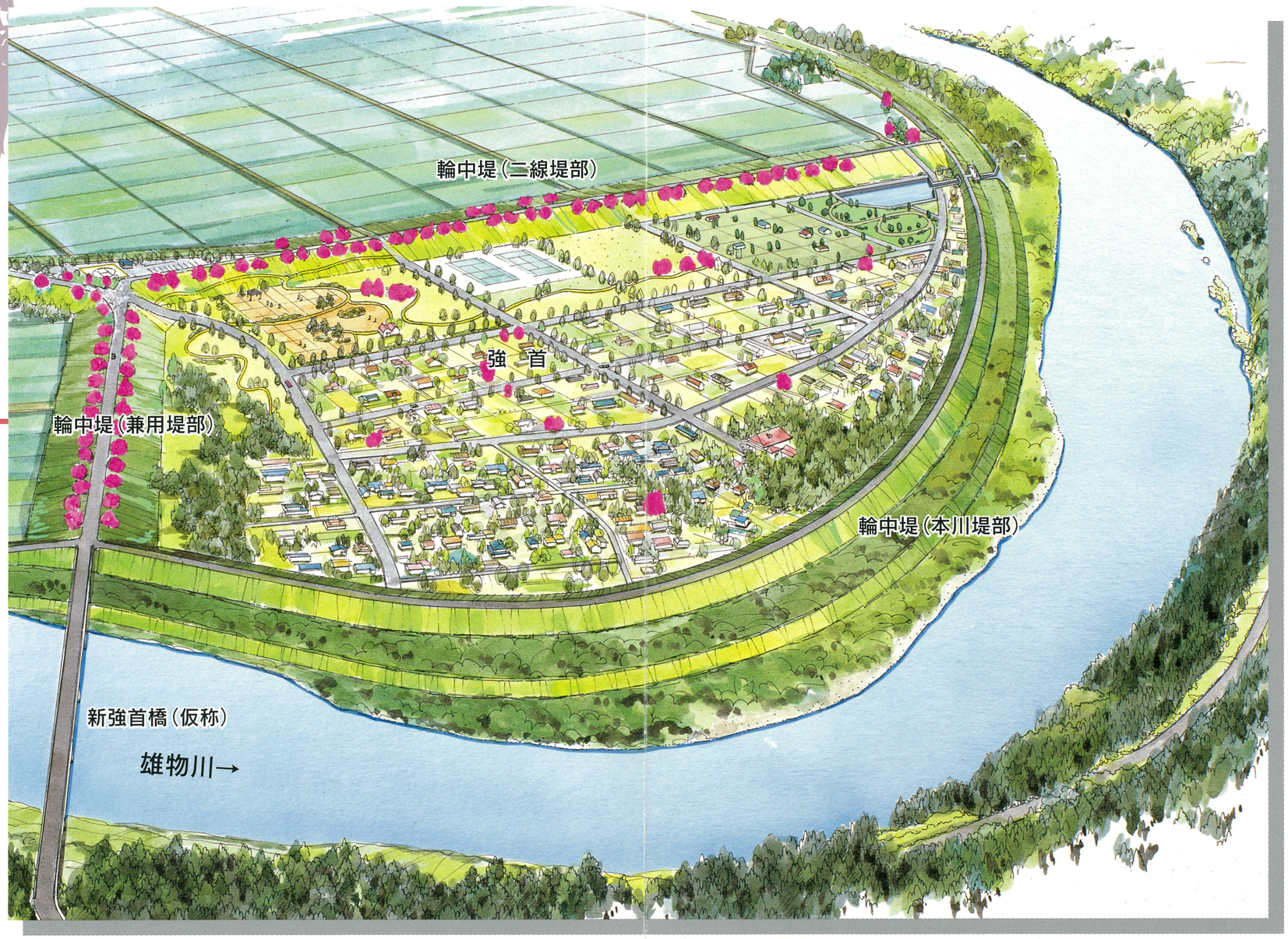
雄物川とともに暮らす、安心と潤いの日々のために。

強首付近の雄物川の分流

先人たちは、新しい河道を掘ることで雄物川を直線化し、氾濫を防ごうとしていた。直線化工事（新川①、新川②）は藩政時代から何度か行われているが、記録的な大洪水を前にしてはその被害を食い止めることはできなかった。

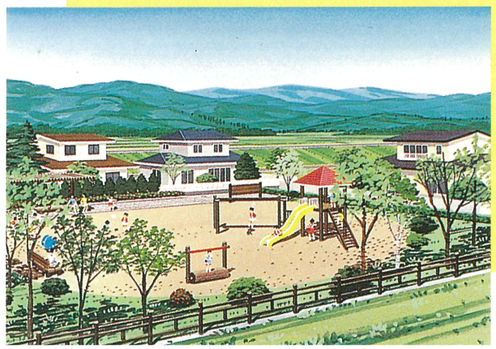
輪中堤完成イメージ図





強首輪中堤整備では、堤防の建設により移転が必要となる強首地区の集落68世帯に対して代替宅地を堤防内に設けます。それまで永年に渡って育まれてきた文化・コミュニケーションを損なうことなく水害を解消できることが大きな特徴といえます。堤防内の広さは約30ヘクタール。うち約12ヘクタールが新しい街並みとして誕生します。堤防内の整備計画については「強首地区町づくり検討委員会」が組織され、事業推進に必要な調査研究が続けられてきました。

堤防内完成イメージ図



新しい強首集落には公園緑地計画「緑のマスタープラン」を踏まえた緑のネットワークが展開される予定です。また、公民館、郵便局などの公共施設を一箇所に集中して整備するなど生活の利便にも配慮したまちづくりが計画されています。



堤防は通常に比べるとかなり緩やかな傾斜となります。堤防内の生活と川との隔たりを極力少なくし、堤防際の住居でも圧迫感を感じないよう配慮したものです。洪水の恐怖と一緒に川への親しみまでもは失いたくないものです。

■ 整備の諸元 ■

建設省	本川堤部　二線堤部	兼用堤部
秋田県	県道整備（橋梁架け替え、旧橋撤去、右岸取付道路）	兼用堤部
西仙北町	宅地造成　上下水道　町道整備	

■ 強首地区町づくり検討委員会 ■

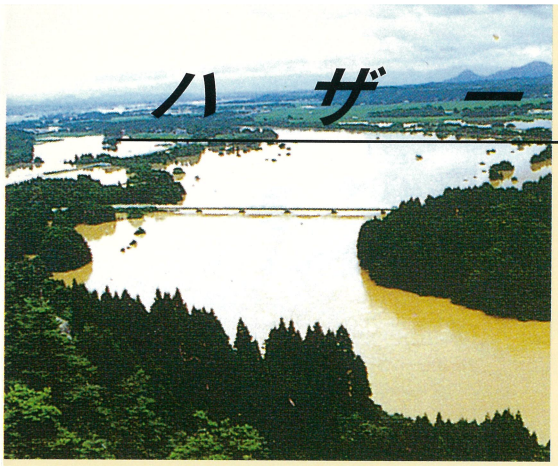
雄物川改修強首輪中堤建設に伴う強首地区の新しい町づくりのため、関係各層が積極的に協力し、事業の推進を図ることを目的に以下の構成にて平成５年４月に組織されました。

- 西仙北町
- 建設省湯沢工事事務所
- 秋田県仙北農林事務所
- 秋田県仙北土木事務所
- 地区西仙北町議会議員
- 強首三部落
- 地権者
- 強首農業協同組合
- 西仙北町土地改良区

※西仙北町、建設省湯沢工事事務所、秋田県仙北農林事務所、秋田県仙北土木事務所で作業部会が組織され、委員会の所掌事業の円滑化を図るため必要次項の原案作成等を行ってきた。



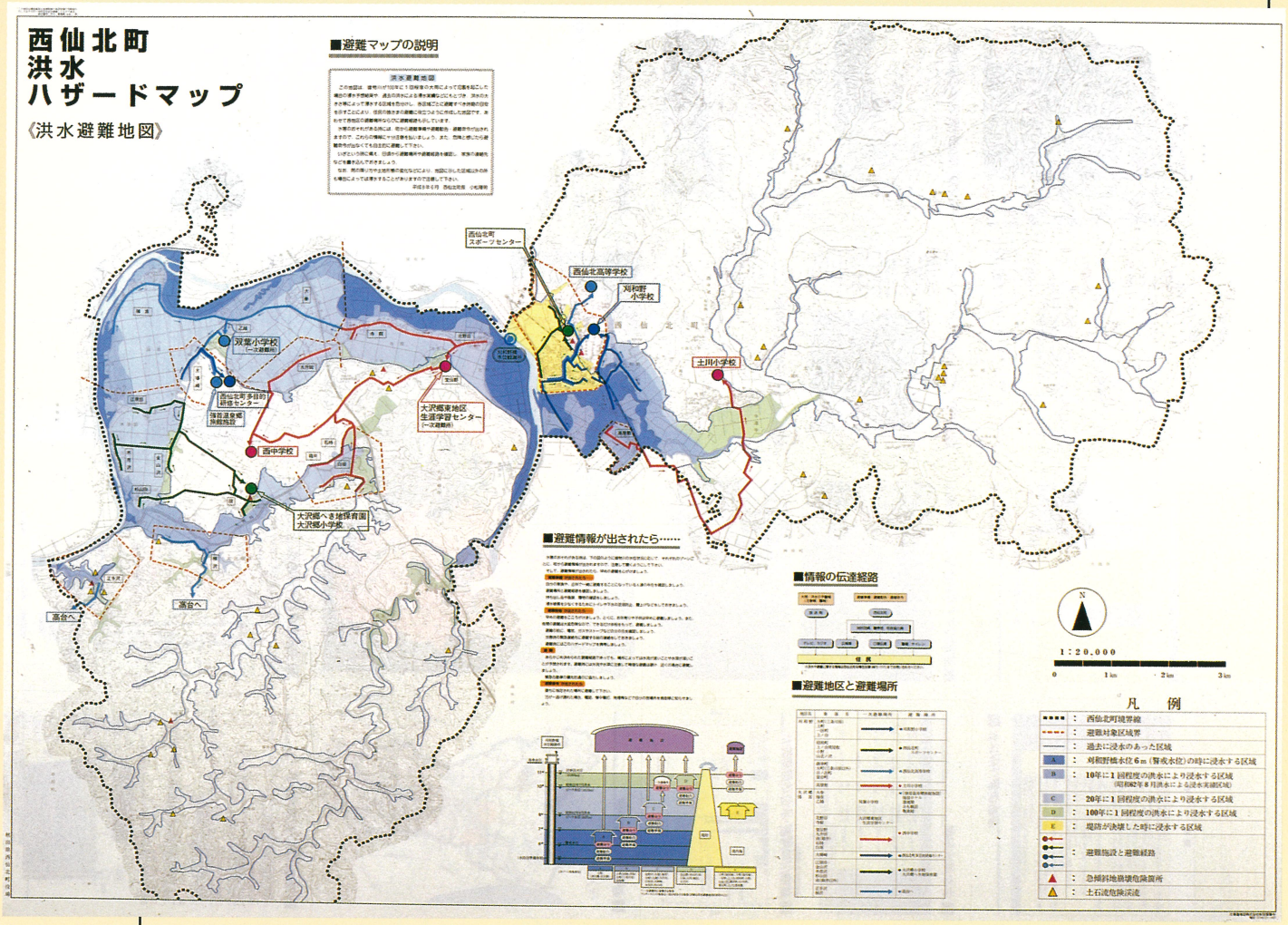
ハザードマップ作成



マップはA０サイズ（841×1,189mm）。４つに折ってＡ４サイズとなる。
災害時の携行を考慮して水に濡れても破れにくい紙が使用されている。

もし水害が起きてもすべての町民が安全に避難できるよう、災害に強い地域づくりを目指して町内全世帯に配付。

洪水ハザードマップとは、水害が発生したときに適切な行動がとれるよう、その配付により、安全な避難方法や避難経路などを住民の人たちにあらかじめ知っておいてもらおうというものです。このようなソフト対策を行うことで、災害に備えた日頃の防災意識を高め、災害時の被害を最小にとどめることを目的としています。西仙北町では、平成８年6月、作成委員会によりにハザードマップを完成させ、町内全世帯に配付しています。



マップには、洪水の大きさに応じて、浸水の危険がおよぶ区域を５つのゾーンに分けて図示しています。そして地区ごとに避難場所を設定し、危険なルートを避けた避難経路を示しています。さらに、避難時の心得や持ち物・医療機関・防災関係機関・避難施設の情報一覧、過去の主な洪水記録なども記載しており、洪水の学習資料としても活用することができます。





■西仙北町ハザードマップ作成委員会

平成７年10月、学識経験者や建設省、県、消防・警察各関係機関、地元消防団幹部らからなる委員会を発足させ、災害時の避難場所や避難経路、対応策等の策定に取り組んできました。



刈和野大綱引き

室町時代からの伝習。周囲2.2メートル、長さ約50メートル、重さ約10トンの大綱二本が作られ、毎年旧暦１月15日の夜、数千人による引き合いが行われる。平将門の一族長山氏の氏神・市神様を祭るお祭りで、現在は上町が勝てばその年の米の値が上がり、下町が勝てばその年は豊作であるとされてい

…地域に息づく伝統・文化を未来の子供たちに継承するためにも、一日も早い水害解消が望まれます。

問い合わせは

建設省 東北地方建設局 湯沢工事事務所

工務第一課

〒012 湯沢市関口字上寺沢64-2

TEL 0183-73-3174

FAX 0183-73-3179